

1-9-2 『資本論』全三部の構成と「第三部」について、マルクスが「第三部」で論究したこと

マルクスは、『資本論』の「第三部」の冒頭で次のように述べています。

「第一部では、それ自体として見られた資本主義的**生産過程**が直接的生産過程として示している諸現象が研究されたのであって、この直接的生産過程ではそれにとって外的な諸事情からの二次的な影響はすべてまだ無視されていたのである。しかし、このような直接的生産過程で資本の生涯は終わるのではない。それは現実の世界では**流通過程**によって補われるのであって、この流通過程は第二部の研究対象だった。第二部では、ことに第三篇で、社会的再生産過程の媒介としての流通過程の考察にさいして、資本主義的**生産過程**を全体として見ればそれは**生産過程**と**流通過程**との統一だということが明らかになった。この第三部で行われることは、この統一について一般的な反省を試みることではありえない。そこでなされなければならないのは、むしろ、**全体として見た資本の運動過程**から出てくる具体的な諸形態を見いだして叙述することである。現実には運動している諸資本は具体的な諸形態で相対しているのであって、この具体的な形態にとっては直接的生産過程にある資本の姿も流通過程にある資本の姿もただ特殊な諸契機として現れるにすぎないのである。だから、われわれがこの第三部で展開するような資本のいろいろな姿は、社会の表面でいろいろな資本の相互作用としての競争のなかに現われ生産当事者自身の日常の意識に現れるときの資本の形態に、一步ごとに近づいて行くのである。」（『資本論』大月版④ P33～34）

この文章を理解しやすいように補足して言うと以下ようになります。

「第三部」で論究されなければならないのは、「**全体として見た資本の運動過程**から出てくる具体的な諸形態を見いだして(科学的に——青山補筆)叙述すること」である。「現実には運動している諸資本は具体的な諸形態」として存在するのだから、「この具体的な形態(をとる資本＝「現実には運動している諸資本」——青山補筆)にとっては直接的生産過程にある資本の姿も流通過程にある資本の姿も」ただ、資本が現実には運動するうえでの「特殊な諸契機として現れるにすぎないのである。だから、われわれがこの第三部で展開する(剰余価値の利潤への、商品資本の商品取引資本への、貨幣資本の貨幣取引資本への転化等の——青山補筆)ような資本のいろいろな姿は、社会の表面でいろいろな資本の相互作用としての競争(それは各個の資本家に資本主義的**生産様式**の**内在的な諸法則**を**外的な強制法則**として押しつけ、資本家に自分の資本を維持するために絶えずそれを拡大することを強制するところの競争——青山補筆)のなかに現われ(るときの資本の形態に、つまり——青山補筆)生産当事者自身の日常の意識に現れるときの資本の形態に、一步ごとに近づいて行くのである。」

つまり、マルクスはこの文章で、まず、「第三部」での論究のテーマは、**全体として見た資本の運動過程**から出てくる具体的な諸形態を見いだして科学的に叙述することだと言います。そして、この「具体的な諸形態」は、社会の表面での資本の相互作用としての競争によって「直接的生産過程にある資本の姿も流通過程にある資本の姿も」覆い隠された「資本の形態」であり、それは、生産当事者自身の日常の意識に現れるときの資本の形態であると言っています。

このように、この文章は、「第三部」での論究のテーマについて、不破さんが言うように、『社会の表面』に現れる世界は「常識的な社会の見方そのものだ」などという分かりきったことを小難しい言葉を使っていっているではありません。マルクスは、「第三部」での論究を通じて、生産当事者自身の日常の意識に現れるときの資本の形態とはどのようなものなのかを、「**全体として見た資本の運動過程**」＝資本主義的生産様式における「資本主義的生産の総過程」を科学的に叙述することによって解明しているのです。

そして、マルクスは『資本論』の「第三部」で、「諸姿容」だけでなく、つまり、「三つの階級の、すなわち資本家、土地所有者および賃労働者の経済的な諸関連を暴」くだけでなく、「資本主義的生産様式の『解体』を、ブルジョア社会の克服にまでいたるべき階級闘争として論じる」ことを思い描いていました。また、マルクスが1858～1862年頃からあたためていた「経済学批判」の構成プランの中の『資本論』の守備範囲に該当する部分の執筆プランでは、「資本の生産過程」、「資本の流通過程」及び「**両過程の統一** または資本と利潤 利子」となっています。

なお、私たちは、上記の「競争」とは、各個の資本家に資本主義的生産様式の内在的な諸法則を外的な強制法則として押しつけ、資本家に自分の資本を維持するために絶えずそれを拡大することを強制するものであることを忘れてはなりません。(※「C、資本主義社会Ⅰ」の「8、近代(現代)の国家」の「8-16 資本主義の内的諸法則は自由競争と不可分である」(マルクス『経済学批判要項』Ⅲ P599～602)のPDFファイルを参照して下さい。)